様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年 １０ 月　 ６ 日現在

機関番号：８４４１３
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2014～2017
課題番号：２６３７０１５３

研究課題名（和文）シノワズリの中での輸出伊万里に見るジャポネズリ研究

研究課題名（英文）Imari porcelain in the stream of Chinoisrie in Europe

研究代表者
出川　哲朗（Degawa, Tetsuro）

公益財団法人大阪市博物館協会（大阪文化財研究所、大阪歴史博物館、大阪市立美術館、・大阪市立東洋陶磁美術館・館長

研究者番号：５０３７３５１９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,800,000円

研究成果の概要（和文）：17世紀から18世紀にかけて、ヨーロッパには多数の中国の工芸品が流入して、宮殿や貴族の館に収められている。そして、これらの影響を受けた中国風の絵画や工芸品がヨーロッパで制作された。これらはシノワズリーと呼ばれる流行となっていった。ヨーロッパ各地に残されている輸出用の中国陶磁コレクションは膨大な数量であり、そのなかに、日本陶磁も含まれている。
　ドレスデンのアウグスト強王が収集した伊万里磁器コレクション,中国陶磁コレクション、マイセン磁器コレクションは、収蔵品台帳に記されていｒ。宮殿に残されている伊万里磁器が中国の輸出陶磁の流れの中で、どのような様相であったのかを知ることができる。

研究成果の概要（英文）： Chinese art objects were stored in many palaces in Europe in 17th century and 18th century. And Chinese style arts, called Chinoiserie, were made in Europe under the influence of these artcrafts. Huge number of the Chinese ceramics were remained still now in Europe and Japanese ceramics, Imari are also stored among them.
The collection of Augustus the Strong is consists of Chinese porcelain, Japanese porcelain and Meissen porcelain. We can the position of
the Imari ware in the main stream of Chinese export porcelain.

研究分野：東洋陶磁史

キーワード：シノワズリー　輸出伊万里

１．研究開始当初の背景

ヨーロッパに輸出された伊万里磁器が日本に多数里帰りし、またヨーロッパ各地の宮殿などには中国陶磁とともに、伊万里磁器が展示されている。これらの伊万里磁器がたびたび日本で展覧会などを通して紹介されている。この伊万里磁器とヨーロッパへ輸出された中国陶磁との比較検討が必要であった。特にドレスデンのアウグスト強王のコレクションは以前から知られていたが、その全貌については研究プロジェクトが進行中であった。

２．研究の目的

ヨーロッパにおいては、ロココ様式に溶け込んだシノワズリは中国から流入した工芸品などをはじめとする文物の影響である。しかし、17 世紀後半からは、日本の伊万里磁器がシノワズリの文脈の中に入り、ドレスデンではアウグスト強王によって「日本宮」が建設されるほどであった。シノワズリのなかで、伊万里磁器はジャポネズリともいえる要素を持っていることをヨーロッパのコレクションを通して探る。

３．研究の方法

ヨーロッパ各地に中国陶磁と日本陶磁を収蔵した宮殿がある。特にドイツ、オランダ、フランス、ベルギー、イギリスなどの各国の宮殿では日本陶磁が多数収蔵されている。日本陶磁はシノワズリの流行の中にあって、ジャポネズリとして、一定の地位をしめていたことを、収蔵品の状況から探る。とくに、ドレスデンの「日本宮」に収蔵されている伊万里磁器は、中国陶磁とはっきり区別されて、いる。ここには収蔵品台帳がのこされていて、シノワズリとは別の視点から中国陶磁と日本陶磁が収集されていたことを示し、17 世紀から 18 世紀にかけてのヨーロッパにおける伊万里磁器の位置と評価について、中国陶磁との展示方法などから探る。

４．研究成果

17 世紀のヨーロッパにおけるシノワズリについて、中国陶磁が果たした役割について、これまでイギリスを中心としたヨーロッパの研究者によって、なされてきた。シノワズリの研究は ”Chinese Whispers; Chinoiserie in Britain 1650-1930 ”(David Beevers 2009)などによってすすめられ、17 世紀から 19 世紀の中国美術と中国陶磁の収集の背景が研究されている。また輸出された中国や日本陶磁がヨーロッパに与えた影響などについて“Oriental Export Market Porcelain and its influence on European Ware ”(Geoffrey Godden1979) 、 ” Chinese Export Ceramics ”(Rose Ker, Luisa Mengoni 2011)などで研究されてきた。オランダ東インド会社によって中国から運ばれてヨーロッパにもたらされた中国陶磁は実用品としてよりも、もっと貴重な装飾品としてもてはやされた。宮殿ではロココ様式の中で、存在感を示した。一方 17 世紀後半にオランダの画家、ジャック・サミュエル―ベルナール、ヤン・ファイト、ヤン・ステーン、ヴィルヘルム・カルムなどによる風俗画では、中国の青花磁器であるカラックウエアが珍奇な高級品として盛んに描かれている。” Oriental Porcelain in Western Painting 1450-1700 ”(Arthur Springer 1964).

これらの中国陶磁に描かれた様々な文様がヨーロッパの工芸作品の中で使われて、シノワズリの流行が始まる。すでに 1670 年にはルイ 14 世の指示により、ヴェルサイユ宮殿の一部に「磁器のトリアノン」が作られ、シノワズリの装飾を施すとともに、実際の中国陶磁の収集品が展示されていた。中国陶磁に触発されて、オランダでは盛んに中国陶磁を模倣したデルフトウエアが制作されている。デルフトウエアの中には、伊万里磁器を模倣したものも見ることができる。またマイセンでは 18 世紀の初頭には中国陶磁の宜興窯、徳化窯、景徳鎮窯の陶磁器の複製品がアウグスト強王の命令によって試みられ、焼成に成功している。中国陶磁のヨーロッパへの輸出は 16 世紀後半から盛んになり、それに影響を受けてシノワズリも盛んとなる。ジャポネズリという用語は、ジャポニスムに含めて考える立場もあり、ジャポネズリという用語は美術史の中ではあまり使われていない。本来はジャポネズリは 17 世紀後半から 18 世紀の輸出用伊万里や漆器のヨーロッパにおける愛好から生まれてきたものである。ジャポネズリの概念ははっきりとした定義もなされていない。そして、ジャポネズリは 18 世紀には、ヨーロッパの宮殿では、シノワズリの概念に包摂するかたちで、認識されていた可能性がある。日本陶磁の用語としてしばしば「柿右衛門」の名前がよく知られているが、実際は「柿右衛門」という用語は当時使われていなかった。

「柿右衛門」はヨーロッパに輸出され好評を博した 17 世紀後半の日本陶磁の一部であり、当時は柿右衛門のスタイルをはっきりと認識してはいなかった。ジャポネズリは柿右衛門を含んだ輸出伊万里磁器の流れのなかで生まれた。中国の輸出陶磁にも、伊万里のコピーや伊万里のデザインの一部を取り入れたものが出現している。この時点で、シノワズリ

の中にジャポネズリが入り込み、ヨーロッパ陶磁においても、18 世紀に伊万里磁器のコピーが盛んに制作されるようになる。伊万里磁器が中国陶磁やヨーロッパ陶磁に影響を与えているのである。
ヨーロッパの宮殿に収蔵される中国陶磁、日本陶磁のコレクションで知られているのは、ドイツのヘッセン市のヴィルムヘルムスタール城、ファザナリ城、アルンシュタット市のアルンシュタット城、アルテンベルク市のアルテンベルク城、シュツットガルト市のルードヴィクスブルク城、ミュンヘン市のレジデンツ宮殿、ドレスデン市のツビンガー宮殿、オラニエンブルク宮殿、ベルリン市のシャルロッテンブルク宮殿、などがある。なかでも、ドレスデン市にあるツビンガー宮殿の陶磁器コレクションはザクセン選帝侯ポーランド王、アウグスト強王が「日本宮」の装飾のために 2 万点近くも収集したものである。ヨーロッパ最大の伝世する陶磁器コレクションである。現在はドレスデン国立陶磁美術館の収蔵品となっている。ここに収蔵される中国陶磁、日本陶磁、には 1721 年と 1727 年に制作された収蔵品目録に記されている。陶磁器にはヨハネウム番号ともよばれている記号と番号が彫り込まれている。ヨハネウムとはドレスデンのノイマルクトにある建物のことで、ここに 1876 年に移動したことに因む名称である。収蔵品目録には中国陶磁と日本陶磁がはっきりと分けて記録されている。現在の研究者の視点では中国陶磁と日本陶磁のいくつかは誤って認識されていたのであるが、ほとんどの陶磁器について、中国陶磁と日本陶磁が分けられ、またマイセン磁器も同様にアウグスト強王はコレクションをしていた。
アウグスト強王と呼ばれる在位は 1709－1733 である。（ザクセン選帝侯として 1694-1733、ポーランド王として 1709-1733）アウグスト強王が東洋陶磁のコレクションをした時期は 1717 年ごろから 1733 年までと推定される。すでに、プロイセンのシャルロッテンブルク城をアウグスト強王はみて磁器室飾りのある宮殿の建設を進めている。すでにアウグスト強王は 1709 年にヨーロッパ初の磁器焼成の報告を受けている。また 1710 年にはマイセンのアルブレヒツ城で磁器制作の工房を設置して、磁器生産にとりかかっている。さらに、1717 年にはプロイセンのフリードリヒ 3 世から中国の青花磁器 151 点とザクセンの竜騎兵 600 人との交換を行うなど、磁器の収集に情熱を傾けている。1717 年にアウグスト強王はエルベ川沿いの「オランダ宮」と呼ばれていた建物をフレミング伯爵から購入して、この宮殿内部を磁器で厄装飾する計画をたてた。1719 年にはフリードリヒ・アウグスト 2 世皇太子の結婚式の宴会がこのオランダ宮で催され、マイセン磁器や中国、日本の磁器が室内に飾られている。この時すでに、大量の磁器の収集が完了していたと思われる。1719 年の結婚披露宴の見取り図がのこされ、室内の壁面に多数の磁器が飾られている。1721 年には収蔵品目録が作られている。そこには 13288 点が記録されている。また 1727 年にも追加で収蔵品目録がまとめられている。その時は 21099 点となっている。この点数については 2018 年のドレスデンで開催されるシンポジウムでさらに詳細なことが報告される。
「オランダ宮」を磁器室で埋め尽くすため、マテウス・ダニエル・ペッペルマンによって、1729 年からは「日本宮」として改装工事が始まった。「日本宮」の設計図面が残されている。そこには現在、ドレスデンの国立磁器美術館に収蔵されている磁器が飾られる予定であった。1733 年にアウグスト強王は没し、その後工事は継続されたが、磁器室で全体を飾るには至らなかった。外装は完成していて、１階は中国陶磁と伊万里磁器、２階はマイセン磁器で飾る計画であった。室内の磁器飾りの図面には壁面全体に磁器を配置するものである。
「日本宮」の設計図面には各部屋ごとに纏まってテーマをもって展示計画がなされていることが分かるのである。
日本磁器と中国磁器は別の部屋に飾られ、さらに中国陶磁は色彩別に分けて、統一感を持たせた展示となっている。
1721 年の収蔵品目録には、中国陶磁と日本陶磁が分けて、一つ一つの特徴が分かるような記述がなされている。また入手先についても、1727 年の収蔵品目録には記入されている。
アウグスト強王の中国磁器、日本磁器の主な入手先は商会からと、伯などのコレクターからである。オランダ商人から直接購入した例もあると思われ、18 世紀初めの日本陶磁の状況が極めてよくわかる資料である。
ドレスデンの中国磁器、日本磁器、マイセン磁器からなるアウグスト強王によるコレクションが 1717 年から 1733 年にかけて集中的に行われ、しかも 1721 年、1727 年に収蔵品目録が作られたコレクションである。収蔵品にはすべて記号と番号が刻み込まれていて、収蔵品目録に記録されている磁器とほとんどが照合可能となっている。このコレクションの性格は 18 世紀初頭の中国磁器と日本の伊万里磁器、そしてマイセン磁器のドレスデンにおける様相が明快に把握できるのである。シノワズリの流れのなかで、

日本磁器が占める役割は、アウグスト強王の場合には、極めて高いことが分かる。その日本磁器コレクションには漆で装飾された瓶が多数収蔵されていること。また大きな瓶から小型の碗や皿、人形、水注、さらに柿右衛門様式の瓶も多数収蔵されていることである。同時にマイセン磁器では伊万里磁器の倣製品も収蔵され、伊万里磁器の影響力を示している。残念なことには、20 世紀初頭にドレスデンの収蔵品のうち、重複した作例の一部が売却され、代わりに中国陶磁の購入費に充てられたことである。現在、大英博物館、フランス国立ギメ美術館など各地の美術館にドレスデンから流出した中国磁器、日本磁器の収蔵が確認されている。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　　０件）

〔学会発表〕（計　０件）

〔図書〕（計　０　件）

６．　　研究組織
(1)研究者代表
出川哲朗（DEGAWA Tetsuro）
大阪市立東洋陶磁美術館　館長
研究者番号：50373519